

住民こそ主人公・住民のための市政を

明日の相模湖

No. 896

2023年 11月号

発行：日本共産党相模湖支部

住所：相模原市緑区寸沢嵐794-3

宮崎あき子気付

電話：042(685)1046

mail: jcpsagamiko@gmail.com

土木関係の要求に対する 取り組み状況を伺う

日本共産党相模原市議団は昨年、市民アンケート活動を行いました。その中で市民の方から様々な要求が寄せられました。加えて党の相模湖支部にも住民の方から口頭などで幾つかの要望が寄せられていました。それらの中から主に土木関連の要求・要望を整理し、17件について必要な写真も添えて6月6日、市の津久井

等も確認し、回答できる状況になっており、一件ごとに説明を受けました。ただまだ担当部長の決済をとっていないということで、決済を得られ次第、正式な回答書を渡したいということでした。

今回の説明前に支部としても何力所

か現場を見て回りましたが、既に補修等が終了している所もありました。(上の写真参照)

これから5ヶ月以上になりますので10月30日に進捗状況を伺う場を設けてもらいました。

市側からは津久井土木事務所長の成沢氏他、相模湖班の担当職員2名が参加。すべての要求項目について、現場



津久井消防署横から町田学園方面に侵入する道路の亀裂

か現場を見て回り、既に補修等が終了している所もありました。(上の写真参照) これからも異常気象等の影響で崖崩れや道路等の損傷が発生する可能性があります。そのような事態になりましたらぜひご連絡下さい。

診療所をなくさないで!

相模原市は昨年、中山間地域(津久井・相模湖・藤野地区)の持続可能な医療の在り方に係わる基本方針(案)を発表し、12月15日からパブリックコメントを実施し、その後それぞれの地区で住民説明会を行ってきました。

基本方針(案)はオンライン診療などを掲げていますが、問題は各地区に2ヶ所ある診療所を1ヶ所に統廃合し、3月には決定する内容でした。住民説明会では「高齢者が多く診療所がなくなったら困る」「拙速に決めないでもっと住民の意見を聞いて欲しい」などの声が多く出され、「診療所の統廃合を考える会」が中心になって取り組まれた「再検討を求める署名」は短期間の内に1300筆も集まりました。こうした住民の声で市も3月決定を事実上先延ばししていますが、方針は変えない姿勢です。「考える会」は「存続を求める会」に発展。新たに「診療所を残すことを求める署名」に取り組み、10月24日に2449筆、市長宛に提出。市はこうした住民の切実な声に応え、診療所を存続すべきです。



津久井の低山

⑧

イタドリ沢の頭

かしら

藤野駅を降りて沢井トンネルをくぐると、春には土手にカタクリの花が咲いています。すぐ近く右下へ下る階段を降り、下の道路への近道でこちらにもカタクリが群生しています。下の道路に出て右に進んで中央電子の会社を過ぎ、集落

を過ぎた所で左上に行く登山道があります。ここがイタドリ沢の頭（五〇六M）の入口です。足元のスマシレや、キジムシロなどの春の花を愛でながら登ると、このあたり野生の桜の一種、エドヒガンの白い花が頭上に見られます。このエドヒガンは相模川以北の小仏山地にはたくさん見られ、吉野や沢井や佐野川の山には普通ですが、不思議な事に相模川以南の山には嵐山に見られる位で、ほとんど分布してない事です。この先、尾根道は松などの植林地で眺めは少なくなりますが、急登で苦しくなった頃「イタドリ沢の頭」の山頂に着きます。漢字で「虎杖沢の頭」五〇五・八Mという標識があります。眺めは無いが休憩に良いベンチがあります。この先は穏やかな道が杉林の中や気持ちの良い雑木林に続き、急坂を登ったピークが「矢の音」山頂六三三Mで、県の気象観測装置が建っています。一端下れば与瀬神社から「明王峠」七三九Mへの登山道に合流します。



大名行列出発前に記念撮影

小原宿本陣祭 好天に恵まれにぎやかに

11月3日、小原地域の秋の大きな恒例行事になった小原宿本陣祭が取り組まれました。1994年に始まり、コロナで中止した年もありましたが、今年で27回目になります。「この日相模湖は江戸になる」と案内チラシには書かれ、「江戸っぽい衣装コンテスト」がイベント広場の目玉の一つになっていましたが、宣伝が行き渡らなかつたのか参加者は少数でした。